厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
分担研究報告書

適切な緩和ケア提供のためのコンセプトの開発

研究分担者　小川　朝生　国立研究開発法人国立がんセンター　先端医療開発センター
精神腫瘍学開発分野　分野長

研究協力者　道永　麻里　日本医師会　常任理事

研究要旨　がん患者が質の高い療養生活を送るために、がん対策推進基本計画に基づき、「がんと診断されたときからの緩和ケア」が推進されてきた。その結果、がん診療連携拠点病院においては、緩和ケアの提供体制が構築されつつある。しかし一方、地域の緩和ケアにおいては、緩和ケアを担うスタッフが不足し、診療やケアの質が十分に担保されていないこと等の課題があげられている。こうしたことから地域の連携病院や在宅等、がん診療連携拠点病院以外での緩和ケアの普及を図る必要がある。
そのため、「がん対策加速化プラン」では、関係団体と協力して、入院、外来、在宅等の診療の場を問わず、適切な緩和ケアを提供できるよう、緩和ケアに関するガイドブックの改訂を進める等が盛り込まれた。本研究では、がん対策加速化プランに掲げられた「入院、 外来、在宅等の診療の場を問わず、適切な緩和ケアを提供できるよう、緩和ケアに関するガイドブックの改訂を進める」等の施策を具体化するために、臨床現場で必要とされている緩和ケアの技能について調査等を通じて明らかにし、実践的なマニュアルのコンセプトを明らかにした。

A. 研究目的

本研究の目的は、がん対策加速化プランに掲げられた「入院、 外来、在宅等の診療の場を問わず、適切な緩和ケアを提供できるよう、緩和ケアに関するガイドブックの改訂を進める」等の施策を具体化するために、臨床現場で必要とされている緩和ケアの技能について調査等を通じて検証し、コンセプトを確立させることにある。

B. 研究方法

緩和ケアに関する先行研究を確認した上で、地域緩和ケアに携わる医療者に対して、インタビュー調査をおこない、がん診療連携拠点病院外でのがん診療や緩和ケアの提供状況について、質的検討をおこなう。質的検討を踏まえ、がん拠点病院以外の病院や診療所における地域緩和ケアの課題をエキスパートにより網羅的に把握し、実践マニュアルのコンセプトを明らかにする。コンセプトは案を完成させた後、外部の関連領域のエキスパートによるレビューを行い、確定させる。

（倫理面への配慮）
本研究は、業務の改善を目指した活動の一環であり、研究に関する指針等には該当しない。

C. 研究結果

質的検討を踏まえ、エキスパートによる検討を行い、以下の項目をコンセプト案として構成した。

1. 概論
   ・Illness Trajectory と支援の内容を解説する
   言葉の定義を示しておく（この本では緩和ケアアプローチと基本的緩和ケアを扱う。それぞれの基本的な定義を示す）
2. 緩和ケアにおける臨床倫理
3. 包括的アセスメント
4. 治療期の支援

5. 基本の症状緩和
   (ア)疼痛
   (イ)呼吸困難
   (ウ)消化器症状
   (エ)せん妄
   (オ)気持ちのつらさ
   (カ)不眠
6. がん治療に伴う有害事象
7. ACP
8. 死が近づいたとき
9. 苦痛緩和のための鎮静
10. 心不全・COPD に対する緩和ケアアプローチ
11. 療養場所と緩和ケア
   (ア)一般病院
   (イ)緩和ケア病棟
   (ウ)在宅緩和ケア

D. 考察

本研究は、わが国のがん診療連携拠点病院以外の医療施設において、疾患を問わずに提供が求められる緩和ケアの内容を明らかにしたものである。必要となる項目は、がん緩和ケアガイドブックとしてまとめられた。今後、本研究成果は、がん緩和ケアガイドブックとして提供され、わが国の地域緩和ケアの体制整備、ならびに患者・家族の療養生活の質の向上に資することが期待される。

今後、本研究結果に基づき、研修会やワークショップの改訂・実施、e-learning の作成等が実施される予定である。

E. 結論

がん診療連携拠点病院以外の医療機関における疾患を問わない緩和ケアの課題の抽出ならびに、実践マニュアルのコンセプトを作成した。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表（英語論文）

1. Fujisawa D, Inoguchi H, Shimoda H, Yoshiuchi K, Inoue S, Ogawa A, et al. Impact of depression on health utility value in cancer patients. Psychooncology. 2016;25(5):491-5. PubMed PMID: 26283141. Epub Aug 17.
2. Onaka Y, Shintani N, Nakazawa T, Kanoh T, Ago Y, Matsuda T, Ogawa A, et al. Prostaglandin D2 signaling mediated by the CRTH2 receptor is involved in MK-801-induced cognitive dysfunction. Behavioural Brain Research. 2016;314:77-86.

論文発表（日本語論文）

1. 小川朝生. サイコオンコロジーの立場での意思決定とは～これからの超高齢社会をふまえて～. がん看護. 2016(1):16-21.
2. 小川朝生. せん妄予防の非薬物療法的アプローチ. 医学のあゆみ. 2016;256(11):1131-35.
3. 小川朝生. 「早期緩和ケア」と「診断時からの緩和ケア」の問題をその背景から考える. Cancer Board Square. 2016;2(1):66-9.
4. 小川朝生. せん妄って何？. 緩和ケア. 2016;26(2):89-93.
5. 小川朝生. 現場の取り組みで学ぶ　発達障害と職場適応に向けたかかわり方　空気が読めない！. 看護人材育成. 2016;13(1):103-7.
6. 小川朝生. 現場の取り組みで学ぶ　発達障害と職場適応に向けたかかわり方　パニックになる！！. 看護人材育成. 2016;12(6):95-101.
7. 小川朝生. がん治療における精神心理的ケアと薬物療法. 臨床消化器内科６月増刊号　消化器がん化学療法. 2016 ;31(7):77-81.
8. 小川朝生. 認知症をもつ高齢がん患者の特徴とアセスメントおよびケアのポイント. がん看護1＋2増刊号　老いを理解し,実践に活かす　高齢がん患者のトータルケア. 2016;21(2):141-4.
9. 小川朝生. 意思決定能力. 臨床精神医学. 2016;45(6):689-97.
10. 小川朝生. アドバンス・ケア・プランニングとはなにか. Modern Physician. 2016;36(8):813-9.
11. 小川朝生. せん妄に関して最近わかってきたこと、知っておくべきこと一予防的

介入がインシデントを減らす．患者安全推進ジャーナル．2016;44:10-6.

12. 小川朝生．急性期病院における認知症対応．病院羅針盤．2016;7(84):11-6.
13. 小川朝生．ぼちぼち．緩和ケア-緩和ケアの魔法の言葉　どう声をかけたらいいかわからない時の道標．2016 ;26(Suppl.JUN):41-2
14. 小川朝生．がん検診から医療機関受診までのストレスについて．ストレス＆ヘルスケア　2016 年秋号．2016;222:1-3.
15. 小川朝生．がん・終末期のせん妄．月刊薬事．2016;58(16):65-70.
16. 小川朝生．がん患者のせん妄に対する対策．腫瘍内科．2016;18(5):408-12.
17. 小川朝生．非薬物療法によるせん妄の予防．Progress in Medicine 2016;36(12):1665-8.
18. 小川朝生．HIV 感染による認知症．精神科・わたしの診療手順．2016;45 増刊号:471-4.
19. 小川朝生．病棟・ICU で出会うせん妄の治療　がん・終末期のせん妄．月刊　薬事．2016;58(16):65-70.
20. 小川朝生．家族のストレスと支援について．ストレス＆ヘルスケア　2016 年冬号．2016;223:1-3.
21. 小川朝生．認知症の緩和ケア．精神神経学会雑誌．2016;118(11):813-22.
22. 小川朝生．乳癌治療における緩和治療④精神症状．乳癌の臨床．2017;32(1):31-5.

学会発表（海外学会）

1. Maho Aoyama YS, Tatsuya Morita, Asao Ogawa , Yoshiyuki Kizawa ,, Satoru Tsuneto YS, Mitsunori Miyashita, editors. Complicated grief, depression, sleeping disorders, and alcohol consumption of bereaved families of cancer: a nationwide bereavement survey in Japan. 9th World Research Congress of the European Association for Pallative Care; 2016 2016/6/9-11; Dubline,Ireland.

学会発表（国内学会）

1. 小川朝生．せん妄の臨床．第１12 回日本精神神経学会学術総会，ワークショップ;2016/6/2; 千葉市美浜区（幕張メッセ）．
2. 小川朝生．誰もが悩み、苦労しているせん妄マネジメントの実際-意思決定能力と倫理的問題-．第１12 回日本精神神経学会学術総会，ワークショップ;2016/6/3; 千葉市美浜区（幕張メッセ）．
3. 小川朝生．精神腫瘍学的アプローチ　頭頸部癌治療における認知症，　せん妄への対応．第 40 回日本頭頸部癌学会,シンポジウム; 2016/6/10; 埼玉県さいたま市（ソニックシティ）．
4. 小川朝生．非痙攣性てんかん重積状態（NCSE）頻度・鑑別・対応．第 21 回日本緩和医療学会学術大会，シンポジウム;2016/6/17; 京都市（国立京都国際会館・グランドプリンスホテル京都）．
5. 小川朝生、武井宣之、藤澤大介、野畑宏之、岩田愛雄、佐々木千幸、菅野雄介、關本翌子、淺沼智恵、上田淳子、西村知子、奥村泰之，editor 看護師を中心としたせん妄対応プログラムの開発．第２９回日本総合病院精神医学会総会,ポスター; 2016/11/25-26; 東京都千代田区.
6. 小川朝生．超高齢社会におけるがん患者と家族の意思決定支援．第31回日本がん看護学会学術集会，シンポジウム; 2017/2/4; 高知市.
7. 小川朝生．周囲を見渡して緩和ケアを考える　スクリーニングとうつ病・うつ状態の治療．第56回日本心身医学会九州地方会,ランチョンセミナー;　2017/1/28; 熊本市.

H. 知的財産権の出願・登録状況

１．特許の取得
なし。

２．実用新案登録
なし。

３．その他
特記すべきことなし。